

～東北はひとつ～ 東北ブロックの紹介

東北ミニバスケットボール連盟

1. はじめに

東北ブロックは北から青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島までの6県で活動しています。また、北東北三県（青森・秋田・岩手）、南東北三県（宮城・山形・福島）それぞれで交流大会を行い、隣県の交流を深めています。活動する中で雪国特有の事情はありますが、各県地区連盟、チーム間で連帯間を持って「東北はひとつ」を合言葉に活動しています。

2. 各種大会について

東北ブロックの大会で特筆出来ることは2回/年間の大会を開催していることです、その大会から普及・交流・技術の向上につながっていることがあげられます。

東北電力旗東北ミニバスケットボール大会（宮城県開催8月）と東北ブロックスポーツ少年団東北ミニバスケットボール交歓大会（開催地各県ローテーション3月）です。

□東北電力旗 東北ミニバスケットボール大会



東北地区全体のミニバスケットボールの普及とレベルアップを目的として企画された大会です。昭和63年（1998）8月に第1回大会が開かれました。東北6県に新潟県を加えた7県の上位チームが一堂に会して行う、東北唯一の優勝大会として注目を集めてきました。

宮城県バスケットボール協会、宮城県ミニバスケットボール連盟が主管となり、宮城県利府町のセキスイハイムスーパーアリーナで開催しています。

この大会への参加は男女各2チームと前年度優勝県にプラス1、そして開催県宮城は3チーム、合計男女各16チームです。

大会運営にあたっては、東北電力株式会社の協賛で始まり第3回大会からは全面的な協賛をいただくこととなり、大会名も「東北電力旗」の冠大会となりました。

□東北ブロックスポーツ少年団・東北ミニバスケットボール交歓大会

東北ブロック各県ローテーションで開催されている本大会は昨年度は福島県郡山市・須賀川市を会場にして第35回大会が開催されました。

期日：平成28年3月12日（土）～13日（日）

出場チーム：男女各 18 チーム、計 36 チーム（各県共に男女各 3 チーム、計 6 チーム）

3. 審判委員会活動

東北電力旗大会期間中に審判講習会を実施

審判委員会では、**全国に通用するレフェリーを！他連盟に通用するレフェリーを！東北ミニ連から上級を！**と、熱い思いを持って、この講習会の運営にあたっています。

この審判講習会は、トップレフェリーに直接ご指導していただける貴重な機会となっています。トップレフェリーの教えが、目の前の子供たちのプレーを正しく見て判定することはもちろん、高い志を持ってバスケットボールに関わることで、多くのバスケットボール技術を理解した上で目の前の子供たちのためにコートに立つことなど、審判員に大きな刺激を与え若手の育成につながっています。



東北唯一のチャンピオンシップは、我々審判員にとってもチャレンジの場です。審判員の真剣な実力勝負の場となっています。この舞台をステップに、『親切に・丁寧に・誠実に』対応できる、柔軟で公平なレフェリーが多く育っている

講習会です。

4. 交流大会

北東北（青森・秋田・岩手）と南東北（宮城・福島・山形）それぞれ交流大会を毎年開催。

□第 20 回北東北三県ミニバスケットボール交歓大会

期日：平成 28 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）

会場：秋田県秋田市 CAN アリーナ★あきた（秋田市立体育館）

出場チーム：各県男女各 3 チーム計 16 チーム

□第 33 回南東北三県ミニバスケットボール交歓大会

期日；平成 28 年 9 月 24 日（土）～25 日（日）

会場：福島県会津若松市 あいづ総合体育館

出場チーム：各県男女各 4 チーム計 24 チーム

◇終わりに…

東日本大震災から 5 年が経ち 6 年目を迎えようとしています。その間、全国ミニバスケットボール大会には「東日本大震災復興支援」の冠を掲げて頂き、全国の皆様から、今なお変わらぬご支援を賜っているところです。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

復興道半ばとはいえ、全国の皆様方の温かいお気持ちが支えとなり、私たち東北は、歩みを止めることなく前に進むことができ、その勇気も頂いております。

そんな中、U-12 を取り巻く環境は、今まさに大きな変革の時期を迎えております。マンツーマンディフェンスの推進、ナショナルジュニア育成キャンプ等々。その対応に様々な意見を交わしながら、“支えられた”東北として全国の皆様のために、そして子どもたちの未来のために何ができるのかを常に考えております。

今回は、その取り組みの中の一環として各種大会、審判部活動等々を紹介させていただきました。今後も、独自の企画等発信し、皆様方の刺激となれればと考えております。

熊本をはじめ、全国には甚大な被害を受けた仲間がたくさんおることと思います。その一日でも早い復興をお祈りするとともに、私たちが受けた御恩を何かの形で返しつつ、これからも一緒に歩んで行けたらと思います。

子どもたちの未来のために、共に頑張りましょう。

2017年1月